

工場本部 生産管理課 森本 康介

学生社員制度を利用し、専門学校に通いながら2年間勤務していた森本さん。仕事の面白さや良い人間関係などを実感し、2025年4月に正式に入社しました。前向きな姿勢が印象的ですが、一体どのような思いで仕事に取り組んでいるのでしょうか？



— どのような経緯で入社されましたか？

高校の就職課の先生に紹介していただいて、学生社員として入社しました。徳島出身なのですが、専門学校に通うために大阪に出てきました。母親が一人暮らしを心配したことをきっかけに、学生社員制度がある会社として当社を教えてください。2025年4月に正式に入社することを決めました。

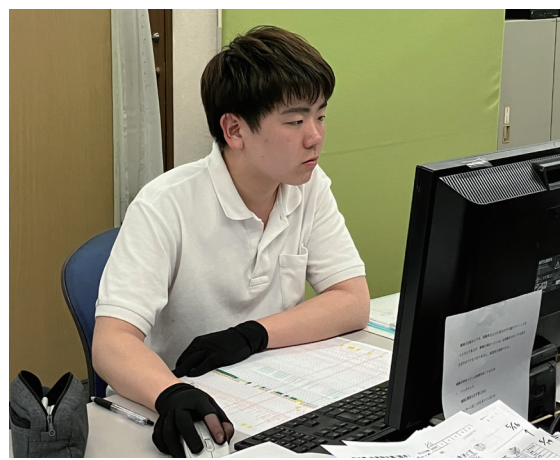
— どのような仕事を行っていますか？

学生社員的时候は、オペレーターの方がセットしてくれた機械を動かして、出てきたものを箱詰め、梱包するといった単純作業を行っていました。また、検品作業や折りのセット調整などにも取り組ませていただきました。さまざまな業務を通して、この仕事の面白さや難しさを知ることができたのが印象的です。

現在は生産管理を担当し、土工の工程管理を行っています。土工では何をしていて、どこで何をしてもらうのかを考えるのが主な業務です。

— 仕事において苦労したことはありますか？

品物のサイズに合わせて機械を調整するのですが、機械に入力して0から組み立てることをセットと呼びます。セットについて基礎を教えてください。後、いざ一人で作業しようとしたところ、教えてもらったものとサイズや量が違うことに気がつきました。そこで、教わったことを



参考に自分で考えて、サイズに合わせてセットしたのですが、これに一番苦労したと思います。わからないことがあれば、その都度先輩に聞いて、地道に覚えていくことを意識しました。ロスを出さないことももちろん大切ですが、折りの場合は作業が遅れると製本ができないため、時間管理が重要だと感じています。

— 仕事におけるモットーは？

私が最も大切にしていることは、不明点があれば一人で悩まずに聞くということ。会社の皆さんも、時間が空いたときに様子を見に来てくださり、私が相談しやすいように動いてくれています。なかには、仕事のことだけではなく、「家で困ったことがあったら聞いて」と声をかけてくださる方もいます。学生社員の頃は、学校の授業が長引いて仕事に遅れることもあったため、そのときに私生活と仕事のバランスについて相談させていただきました。また、仕事が少ない月には資金面を心配し、上司が電話をかけてくれることも。相談しやすい環境にあると実感しています。

— やりがいを感じるのはどのような仕事ですか？

現場では、予定表よりも早く仕事を終わらせて次の仕事に取りかかるなど、時間に余裕を持って作業することができていました。時間管理をしながら、どれだけ綺麗に作業するかを工夫できたことがやりがいだと感じます。

生産管理では、工程表を組む作業を行うのですが、まだ経験が浅いため上司に確認してもらい、細かく調整する形を取っています。上司の仕事の様子を見て、現場で見ていた工程表はこれだけのことを考えて作られているのだとわかり、そこに面白さややりがいを感じました。

— 今後の目標は？

生産管理についてメインで教えてくださる大橋本部長は、本部長と瓜破工場の工場長を兼任しており、尊敬しています。そんな大橋本部長の背中を見て、いろいろな方の力を借りながら仕事を覚えている段階なのですが、いつかは仕事をサポートし、負担を軽減できればと思います。ま

た、事務員の一人としてもっとできることを増やし、成長していくことも目標の一つです。

森本さんは、学生社員の頃から仕事に対する面白さを発見し、現在もやりがいを持って取り組んでいます。春から担当している生産管理でも、現場の経験を活かし、自分なりの工夫を取り入れながら前向きに取り組むことでしょう。今後も森本さんの活躍にご期待ください！



企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：17.6億円
- ◆ 従業員数：200人

※ 2023年12月実績

今回は営業本部の山内課長にフォーカス！転職組として当社に加わった山内課長は、長年外部の視点から当社を見てきた経験を持ちます。その立場から語られる当社ならではの強みには、説得力と深みがあります。そして、60歳を前にした転職という大きな決断を支えたのは、山内課長の揺るぎない信念。その真摯な思いと情熱に迫ります！

旭紙工の ここがすごい！

旭紙工の強み

「困ったときの旭紙工」と評される、 多彩な加工技術と挑戦する力

旭紙工の最大の強みは、他社にない多彩な加工技術です。私は前職で取り引きがあった頃から、旭紙工を「製品のデパート」のような会社だと感じていました。それは導入されている機械の豊富さや、検査装置の充実、対応可能な加工の幅広さが際立っていたからです。製本という括りだけを取っても、これほど多様な技術を持つ会社はほかにないでしょう。

また、当社の技術力はお客様から「駆け込み寺」のように頼られる存在でもあります。数社に断られた難しい案件が持ち込まれることも少なくありませんが、私たちは簡単に「できない」とは言いません。どうすればお客様の要望を叶えられるかを徹底的に考え、可能な提案や解決策をお届けしています。この前向きな姿勢こそが旭紙工ならではの強みであり、これからもお客様の期待に応えるため、大切にしていきたい価値だと考えています。

今後長期的に成し遂げたいこと

わかりやすい資料で 営業活動を全力サポート！

今年の4月から当部では閑散期対策や受注拡大に向けて、新規訪問活動を推進中。内勤スタッフである私は、メンバーが行う外回り活動のサポートに力を注いでいます。例えば、メンバーが出張や外出中の来客や電話対応を代行したり、急なトラブル対応を行ったり……。その中でも特に注力しているのは、営業用資料の作成です。新規訪問先の情報を調査し、必要なデータを簡潔にまとめることで、営業活動の効率化を図っています。最近ではAIツールも活用しながら、企業の事業内容や規模といった情報を収集。営業メンバーが安心して活動に専念できるよう全力で支援していきます。



山内さんの 考えとは？

営業本部 課長

やまうち やすひろ
山内 靖弘さん



課長としての信念

未来を信じて「今」に 全力を尽くす大切さ

私の好きな言葉の一つに「過去を悔やまず未来を恐れず、今に最善を尽くせば幸運を招く」というものがあります。実は旭紙工への転職もこの言葉に支えられました。60歳に近づくタイミングでのキャリアチェンジに、不安がなかったわけではありません。しかし、この言葉を思い返し、「未来を信じて、今できることに全力を尽くそう」と決断しました。そして前向きに行動を続けた結果、長年憧れていた旭紙工に入社することができたのです。これからもこの信念を大切に、目の前の仕事に全力で取り組みながら、幸運を引き寄せていきたいと考えています。

仕事をする上で大切にしている考え方

自分を支えてくれる 身近な存在への感謝

毎日、朝早くから夜遅くまで働く生活が続けられるのは、家族の支えがあってこそだと感じています。営業部での事務作業や管理業務は区切りがつかないことが多く、帰りが遅くなる日も少なくありません。それでも家に帰ると、体調を心配してくれる妻や子どもたちが温かく迎えてくれます。家族にはできるだけ「ありがとう」と口に出して伝えるよう心がけています。また、毎日仕事を無事に終わっているのは、私の生活を見守ってくださる地元の神社のおかげでもあるでしょう。帰り道にはその神社に立ち寄り、「今日も一日ありがとうございました」と感謝の気持ちを伝えるのが習慣になっています。

